

「若い力で地域を守る」

～消防団の活動とこれから目指すもの～



消防団とは

消防団は自分たちが住んでいる地域の安心と安全を守るために消火活動などを行います。常勤の地方公務員として消防署に勤務する消防職員と異なり、消防団員はさまざまな職業についている人で組織されています。火災や大規模災害発生時に自宅や職場から災害現場などへ駆けつける非常勤特別職の地方公務員です。

5つの地区に分かれて活動し、消火だけでなく、地震や台風などの災害に対して警戒し、災害が発生した場合には迅速に対応して、まちや住民を守ることも消防団の大きな役割です。

主な活動

- ・ 火災、台風、地震などの災害対応
- ・ 操法訓練、非常招集訓練、水防訓練など（年間約100日）
- ・ 4大行事（入退式、操法大会、観閲式、出初式）への参加
- ・ 火災予防運動、年末夜警

任期 5年（3年目からは機能別消防団員として消防予備隊の任務）
応募資格 市内在住・在勤で満18歳以上の人



あけましておめでとうございます。市民の皆様は健やかな新春をお迎えのことと思います。

今回は、新春特集として地域の安心・安全を支える消防団の皆さんに日々の活動のなかで心がけていることやこれから目指すものを市長と語っていただきました。なお、内容は要約してあります。また、敬称は省略しています。

問合せ 秘書情報課広報統計係

あいさつ

市長 あけましておめでとうございます。日ごろは碧南市の安心・安全のためにご尽力いただきまして誠にありがとうございます。消防団員の確保には、町内会の皆様のご協力により、毎年50人程の方が入団するという伝統が続いています。

まちの安心・安全を確保することは私のマニフェストにも掲げており、力を入れている分野です。最近台風も多く、記録的豪雨も発生しております。消防団の皆さんに寄せる期待も大きいわけです。

今日は、普段皆さんが感じていることを率直にお聞かせください。よろしくお願いいたします。

鈴木署長 碧南市消防団は大正7年発足で非常に歴史が長いです。時代とともにいい変化をしてきておりまして、一時期、碧南でも火災の際には放水をしなかったという時代もありましたが、現在では防災メールをうまく活用し、いち早く現場に駆けつけていただいております。そして延焼防止にも貢献していただいております。とても力強く感じております。

消防団の重要性

市長 消防団の訓練を見えていますと、

いつもきびきびとした態度で感心しています。これも訓練のたまものだと思うのですが、皆さんが訓練などを行っていく上で大切にしていることはどのようなことですか。



碧南市長 棚田宜信

杉浦団長 碧南市の消防団は若い団員を地域の皆さんに集めていただいております。訓練に対する取り組みも真面目で自慢できる団員ばかりです。まずはその若い人たちがしっかりと自覚を持って、消防団としての誇りを持って活動できる環境にすることを心掛けています。

また、消火活動はもちろん、水害や予想されている大震災などに対してもしっかりとした活動ができるように、「常時の備え」というのをテーマにあげています。防災メールなどを活用しながらいつ何時でも出動でき、機敏に行動できるようにしております。

今後そういった部分にしっかりと力を入れながら、地域の皆さんに理解していただけるような活動を続けてい

きたいと思っています。

長谷団員 訓練のなかでは、さまざまな場面で迅速に行動できるように常に心がけています。

消防団活動の重要な役割の一つに水防があります。昨年も多くの台風や記録的豪雨が発生し、消防団も出動しました。地区をまわったり川の水位を確認したり、こういう災害時にも消防団は活躍しています。入団してからは訓練以外のときでも川の水位を確認、意識するようにしています。実際に出動するときには土地勘も含め、生きてく

鈴木署長 消防団は2年、予備隊は3年で計5年任期があるのですが、予備隊では地域密着型で自主防災会での指導などを行っていただいております。

これは碧南特有のやり方で、短い期間で新しい団員が入団し、卒業していきます。そうすることにより、市民のなかに消防団のOBが増えてきて、自助・共助・公助の自助の部分が浸透していくのではないかと考えています。

他市と比べて任期は短いですが、長い目で見れば市民の方々の防災意識は上がっていくと思います。

市長 市内に消防団のOBがたくさんいるのは市としても非常に心強いですが、また、訓練を通じて誰かに頼るのでは

なく、自ら人のために頑張ろうという意識が芽生えます。そういった機運が市内に広がっていくという効果もありますね。

東日本大震災について

市長 東日本大震災については、私自身大きな衝撃を受けました。その後の救助活動のなかで、さまざまな方が力を尽くされていますが、消防団の方々も大きな役割を果たされていますね。この地域でも地震の発生が危惧されていますが、皆さんは東日本大震災以降、変化したことはありませんか。

長田副団長 東日本大震災のあとに感じたことは、やはり家族や地域のコミュニティを大切にしないといけないということです。大震災ともなると被害も大きくなるので、まずは人命を最優先に考えないといけませんね。

東日本大震災では多くの消防団員が亡くなられたと聞いております。地域のために活動するためにも、まずは団員の安全確保が重要です。その上で地域の皆さんの安心・安全のために活動していきます。

津波を想定した訓練では、震災前は水門を開けるまでの訓練だったのですが、今では水門を開めたあと、速やかに安全な場所まで避難するよう変えています。



碧南消防署長 鈴木賢

尾崎副分団長 災害というのはいつ発生するかわからないので、災害時にきちんと行動できるように力を入れて活動しています。水門を閉める訓練では津波が到達する時間を計算して安全に退避できるように真剣に取り組んでいます。

長谷団員 東日本大震災が発生したあとも自身の防災意識というものは特に変わりませんでした。テレビで震災の映像などを見ても、実感がわきませんでした。しかし、消防団に入団して地震の津波を想定した訓練などを行うことで意識が変わりました。各個人が防災意識をしっかりと持って、避難できるようにする必要があります、ただ助けももらうだけでは駄目だと思うようになりしました。地域の皆さんにもそういう意識を持っていたきたいですね。

杉浦団長 震災直後は皆さん津波に対して危機感を持っていたと思うのですが、最近それが薄くなっているのを感じます。あんな津波は来ないだろうとか、地震が起きても誰かが助けてくれるだろうという感じですね。長谷くんが言ったように地域の皆さんに防災意識を再確認してもらえようというアピールが必要です。消防団員は訓練もしていますし意識もありますが、一般の方に気付いてもらうために何をしたらいいのかを真剣に考えないといけないですね。



消防団長 杉浦栄次

長田副団長 一般的に、いつ来るかわからない災害に対しては意識が薄い方が多いですね。誰かがやってくれるというのでなく、自分にもできることがあるという意識があるといいですね。そういう点では消防団はいい教育の場だと思います。

少子化などによって団員の確保も課題となっていますし、有事の際にも活動できるように自分の時間や仕事の時間を削って活動している団員のためにPR活動も必要だと思っています。



消防副団長 長田康弘

市長 地域全体で盛り上げるといふ雰囲気が必要ですね。地域の皆さんの目に触れることで理解も深まりますし、子どもがいる団員などは、かつこいいと誇りに思ってもらえると思います。

名倉団員 私が消防団に入団してよかったと思うことは、防災意識を高めることができたという点です。私自身、今まで津波は来ないだろうとか、来てみたいということないだろうとか、そういう考えを持っていました。しかし、入団してからは、それではいけないと思ひ意識が変わりましたし、防災器具の使い方など、いざというときに役立つ知識も得られました。



△水防訓練

入団してよかったこと

市長 皆さん充実した活動をされているなかで、楽しいことも苦しいこともあると思うのですが、入団してよかったと思えるのはどんなことですか。



第6分団副分団長 尾崎晃久

榎宜田部長 人前で大きな声を出したり、緊張感のある行動をとるといふことは消防団に入らなければできなかったことのひとつですね。そういうことをすることによって自分の力になります。消防団はいざというときに動ける人間になれる場所だと思います。

入団してから、あまり話せなかった人がよく話せるようになったり、仲間が増え世界が広がったりします。一人ひとりそういうことが仕事にも私生活にも生きています。

石川部長

消防団に入ってみて、さまざまな年齢、職業、個性を持った仲間と出会えました。厳しい訓練と一緒に乗り越えることにより絆がどんどん強くなり、団結力も高まりました。ちょっとした部活動みたいな感じで、皆で協力しながらやっていくということがよかったです。

市長

2年間濃厚な時間を共にすることで、非常に親しい関係が築けるということだと思います。私の周りにも消防団を経験した人がたくさんいます。卒業してからいろいろな所へ旅行に行ったり、仲間意識があつて非常にいいなと思います。

消防団でさまざまな訓練をすることによって意識も変わり、いざというときに自分を守ることもなります。消防団活動は人のためだけでなく、自分のためにもなりますね。

意識が変わったこと

印象に残ったこと

市長 消防団に入る前と後でイメージは変わりましたか。

棚田部長 自分は周りに消防団員をやっていた人がたくさんいたので抵抗はありませんでしたが、ほかの団員では悪いイメージを持っていた人もいました。しかし入団してみると、訓練な

ど、やるときはやりますし、ときには集まってお酒を飲む機会もあります。仲間たちとの結束を高めることになるのが分かります。しかし、そういうことは入団してみないと分かりにくいですね。



長谷岡員

私も入団するときに、反対する人がいました。しかし、一生付き合える仲間ができると聞いて入団を決意し、実際にいい仲間ができました。皆さんにも、是非いいイメージを持って欲しいですね。

入団したあと、仕事中でも家にいるときでもサイレンに敏感になりました。外でサイレンがなっていると、耳を澄ましてどのようなサイレンがなっているか確かめますし、防災メールも着信音を変えていち早く気付けるようにしています。迅速に行動できるように意識するようになりました。

るか確かめますし、防災メールも着信音を変えていち早く気付けるようにしています。迅速に行動できるように意識するようになりました。

名倉団員

私が入団して感じたことは、皆真剣に訓練に取り組んでおり、今までも自分が知らないところでこんなにたくさんの方が地域のために活動していたんだということです。消防署に訓練に行ったり、水門を閉めに行ったり、活発に活動しています。

石川部長

自分の仕事を持っているのに、さらに夜集まって暑かったり寒かったりするなかで訓練を行って、そこまでの必要があるのか疑問はありました。しかし、実際に入ってみると、気の合う仲間ができ、水門の場所や効果、消火活動のための道具の使い方など、いろいろなことが勉強できるすごい会場だったと思います。

鈴木署長

毎年たくさんの方が新しい団員として入団してきます。入退式では大丈夫かなと思う人もいますが、操法大会やそのほかの行事に参加し、半年位過ぎると見違えるように動作が変わってきて、動きもよくなっています。

事業所の方から消防団に入った従業員が半年、一年と活動していくなかで姿勢も変わり、挨拶もしつかりできる

よようになるなど、頼れるようになってきたということを聞きます。短期間で成長することには日ごろから感心させられております。

市長

消防団員として活動してきたなかで特に印象に残っていることはどんなことですか。

尾崎副団長

消防団に入団してからは、いろいろなことが初めてで刺激的なんです。そのなかでも6月に行った操法大会は特に印象が強いですね。特に4月から集中して訓練するのですが、限られた時間のなかでお互いの信頼関係を築きながら一生懸命やっていた姿を見て、本当に素晴らしいなと思いました。操法大会が終わったときの達成感とか、思ったような成績がでなかったときの悔しそうな顔を見ていると、本当に一生懸命やってくれているんだなと改めて思いました。そういう訓練の一つひとつが実際の火事場に必要なことでもあると思いました。

市長

操法大会は新入団員にとっては最初にある大きな行事で、入団して間もない6月にあるのは相当大きなプレッシャーだと思います。毎年それを見させていただいているのですが、2か月の間に本当にしつかりやれるようになっていきますね。そこを経験すると自信もつくと思います。それが基本となつて



第1分団員 長谷昌訓

尾崎副分団長 去年はたくさん台風が接近しましたし、記録的豪雨もありました。大きい地震の発生も危惧されていますし、消防団として火を消す以外の役割も大きくなってきています。地域の方にとって身近で頼れる存在になつていかないとけないと思います。そのためには消防団の活動のPRも必要ですし、自分たちの意識を高める

市長 消防団の皆さんが高い志と問題意識を持って日々活動されていることをひしひしと感じています。今後消防団が目指していくのはどのような活動や団体なのでしょう。

消防団が目指すもの

その後の訓練、行事につながっていきますので、この2か月間の厳しい訓練というのは非常に効果があると思います。



第2分団部長 橋田友弘

長田副団長 今日、各分団の団員の話を聞き、前向きで自分が変わってきた消防団に入つてよかったと、そんな話が聞けて、それが目指すべき団員の姿だと改めて感じています。皆さん仕事をしながら、家庭もあり、限られた時間のなかで頑張つてい

鈴木署長 活動を通じて、自分の身は自分で守る、自分の家族は自分で守つてみせると、そういった精神が養われるような消防団であつて欲しいと思います。そういう人が徐々に増えていつて、それを見ている方も含めて自助の精神が地域に広がっていくといいですね。消防署として引き続き支援していきま

ことも必要です。そして有事の際は地域で率先して活動できるように技術と知識を磨き、地域と密接な関係を築いていきたいですね。



第3分団員 名倉和騎

杉浦団長 長田副団長が話をしたとおり、地域や事業所の皆さんからお預かりしている大事な団員ですので、しっかりと自立をして成長した姿で各地域事業所にお返しできるように、それを基本方針としてこれからもやっていきたいと思っています。360度365日どこから見ても

ます。厳しい訓練もありますし、つらかったり、苦しいときもあると思いますが、活動を通じて人としても成長し、消防団としての能力も向上しますよね。サイレンが聞こえるようになるということも意識の高さからくるものだと思います。そういった自己成長と消防団員としての能力の向上、その両方を目指しながらやっていきたいと思っています。訓練をしていると精神的にも肉体的にも疲れるので、懇親の機会を設けたりしながら、より団結心と絆を深めていつて、杉浦団長が目指すかっこいい消防団につなげていきたいですね。



第5分団部長 石川晴将

市長 かっこよくて頼りになる消防団を市として支援していきます。今後も意見を交換しながらよりよい消防団を目指していきましょう。今日は本当にありがとうございました。



△ポンプ操法大会

恥ずかしくない消防団活動を行っていきます。